

Library Mate

2010
国民読書年

じゃあ、読もう。

今年は**国民読書年**である。「国民読書年」とはなんぞやというと、「本を読んで活字に親しもう、読解力をつけよう、本を読んでもらうために国を挙げて活動するぞ!」と宣言したものである。今年はだから図書館を始めとして、書店、市民団体などが様々なイベントを行っている。

読書年だから本を読もう!と言われたところで、読書好きはともかく、わたし**活字は苦手なのよ**なんていう学生には、レポートのために参考書を読むだけでいっばいだなんて文句を言われそうである。しかも「読書」と聞くと小難しい気がしてなかなか手が出ない人もいるだろう。でも、読書はなにも難しい本を読んで難しいことを考えなさいっていうことではない。読書は**楽しみ**なのだ。授業の課題の本なら苦痛も感じるだろうが、普段の読書はそうではない。自分の好きな本を読めばいいのである。

好きな本っていわれても…いろいろありすぎてどれを読んでいいかわからない、という人もいるだろう。そんなときはとりあえず、図書館の本棚をぶらぶらしてみよう。そして、タイトルから興

味を引かれたものを取りあえず読んでみる。その場でばらばらめくってみて面白くなさそうだったら違う本を選べばいい。大学図書館の本は専門的すぎて抵抗が…なんて人は児童書コーナーの絵本や児童書でもいい。子供向けだし、なんていわず、手にとって読んでみよう。子供向けの本だっていいのだ。**楽しければ**。

読書の何が楽しいかって、非日常の世界に入ってドキドキ、わくわくできること。知らなかった世界を知れること。自分の心のもやもやを取り払ってくれること。なんだか考えさせられること。げらげら笑ってしまうこと。気持ちがあつたかくなること。涙を流すこと。…いろんな感じ方はあるけれど、とにかく本一冊でいろんな体験ができる。しかも**一人で楽しめる**。一人で楽しんだ後は、本の感想を友達と語り合うこともできる。今まで知らなかった友達の一面をのぞけるかもしれない。

そんなわけで、今年ももう半ばを過ぎてしまったけれど、今からでも遅くはない。**本を読もう**。私もこの間から気になっていたあの本を読んでみることにしよう。



実践入門セミナー国文学科スタンダード

－ 21世紀をより良く生きるための32のCan do －

大学 国文学科 専任講師

福嶋 健伸

my bookということなので、これを「私の出版した本」という意味で解釈し、共著で執筆した『大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編』『大学生のための日本語表現トレーニング 実践編』（ともに三省堂）について話したい。その後、私が授業の取りまとめを担当しており、スキルアップ編を教科書としている国文学科の実践入門セミナーについて述べたいと思う。

これらの本を作成しようと考えたのは、今からおよそ6年前、2004年のことである。この当時から既に、「景気後退による就職活動の激化と早期化、それに伴うアカデミック・スキルの早期修得の必要性」が予見されており、実際に、実践女子大学の学生をみると、アカデミック・スキルの修得や就職活動に苦戦している学生が多かった。そこで、少しでも力になることができれば、という思いが強くなり、このような思いが、上記の本の企画に繋がっていったのである。

まず、実践女子大学をはじめ、いくつかの大学でアンケート調査や聞き取り調査を行ったところ、学生が必要としていることは、かなり共通していることが分かった。「ノート・テイキング」「レポートの書き方（内容と体裁）」「図書館の利用」「メールの書き方」「敬語」「手紙の書き方」等のリクエストが多かったのである。そこで、リクエストが多いものを重点的に上記の本に盛り込むことにした。

ポイントを絞った後は、できる限り、学生が楽しめるような工夫を取り入れた。具体的には、日本語教育の考え方等を参考に、「作業をしながら能力を身に付ける」「できなかったことが90分後にはできるようになっている、と実感できる」等の要素を取り入れることにした。幸いにも、本書作成の段階から、本学図書館の協力をあおぐことができ、本学図書館の書類をモデルとしてトレーニングシート等を



『大学生のための
日本語表現トレーニング
スキルアップ編』
橋本修・安部朋世・福嶋健伸編著
三省堂, 2008.8. 79p

大学・短大図書館所蔵 816/H38



『大学生のための
日本語表現トレーニング
実践編』
福嶋健伸・橋本修・安部朋世編著
三省堂, 2009.8. 95p

作成することができました。このため、実践女子大学の学生には、特に「使える」教科書となっているわけである。

国文学科の入門セミナーにおいては、この教科書の中から、学生の今後の人生において特に重要になってくると思われる32の項目を精選し、この32の項目をできる（can do）ようにすることを、国文学科のスタンダードとして目指している。

なお、国文学科の授業担当教員は、1回3時間以上になることも珍しくない自主研修（全員参加）を数日に渡って行い、原則、全員（!）、模擬授業をビデオ撮り（!!）した後、授業の仕方について十分に意見交換を行って、授業に備えている。

加えて、教務担当と大学図書館の全面的な協力により、極めて実践的な、広がりのある授業を展開できるようになった。特に、石川幸子氏、竹田圭氏、山口美奈氏、伊藤美紗子氏の献身的なご協力の御陰で、明らかに学習効果が高まっている。担当者として深く御礼を申し上げたい。

このような背景を持つ、国文学科の実践入門セミナー、どのような成果がでるか、今から非常に楽しみである。今後も、試行錯誤を行い、より良い授業のために努力を続けたいと思う次第である。



子どもの成長と語り聞かせ

大学 生活文化学科 准教授

松田 純子

筆者がまだ幼い頃、父からよく聞かされた笑い話がある。けちで有名な町の金持ち浅井屋の旦那さんの話である。

ある日、浅井屋の旦那が道を歩いていると、そこに鰯が落ちていた。その場を見ていた町の人は、けちな浅井屋の旦那はきっと大喜びして鰯を拾うに違いないと、物陰からそっと窺っていた。すると、旦那は期待に反して、落ちていた鰯を道の脇のどぶに蹴り捨ててしまった。これはどうしたことかと町の人が驚いていると、旦那は「ああ、とんでもない。鰯など拾って帰れば、飯をよけいに食う」と言って、さっさと行ってしまった、とさ。

浅井屋の旦那のけちにまつわる話は、他にもいくつかあった。いずれも凡人の予想を超えるどけちぶりが笑いを誘う。因みに、浅井屋の旦那は実在の人物だという。父がいつどうしてこの話をするようになったのか事情は知らない。しかし、方言（熊本弁）で語る父の話術はなかなかのもので、実家の年始客のなかには、毎年父のおはこの笑い話を楽しみにしてくれる“ファン”もいた。筆者も、結末が分かっているにもかかわらず、いつも面白く父の話の聞いていた思い出がある。

ところで、筆者の故郷、熊本県八代地方には、彦一という笑い話の主人公がいて、「彦一とんち話」が伝えられている。彦一が天狗の隠れ蓑を手に入れる話は、木下順二の再話でも有名である。父の笑い話は、彦一話とは比べるべくもないが、木下順二の言葉を借りるならば、「現代の民話」の一つと呼べるものかもしれない。木下順二から多大な影響を受けた児童文学者で民話研究家の松谷みよ子は、その著書『現代の民話－あなたも語り手、わたしも語り手』の中で、「聴きたいと思う心があれば、現代の民話はどこにでもある」と指摘する。注意深く周囲に耳を傾ければ、確かに学校や病院の怪談や都市伝説など、さまざまな物語が存在しており、今も生まれ続けている。そして、それらは文学作品とはまた異なる豊かさと奥深さを持って、私たちの生活を潤してくれる。

さて、子どもたちは皆「おはなし」が大好きである。子どもの本離れや読書嫌いの話はよく耳にするが、少

なくとも自力で文字を読み進める「読書」を知る以前の幼児は、例外なく物語（おはなし）を好むと言っても過言ではないだろう。それはまた、子どもの成長・発達に物語が欠かせないことの証左でもあろう。そして、幼児が物語に出会うためには、大人の仲介が必要である。幼児は、大人に何度でも物語をねだる。その理由は、物語への関心も勿論だが、語り手（特に自分にとって大切な人）と聞き手である自分あるいは仲間たちとつながり共感しあう時間と、そこに展開する想像の世界に安心して遊ぶことのできるこの上ない楽しさがあるからではないだろうか。このような経験を、すべての子どもたちに十分に保障したいものである。

昨今、子どもへの絵本の読み聞かせが人々の関心を集めているが、筆者はあえて「語り」にもこだわりたいと思う。視覚優位の現代社会のなかで、耳で聞く物語が子どもの成長・発達に果たす役割は、以前にも増して大きいと感じるからである。乳幼児期の発達では、目よりも耳の方がずっと早く完成されることが分かっている。幼い子どもほど耳を通して伝えられる物語が重要なのである。

時代を越えて、人の声で人の耳へと伝えられてきた昔話は、文字で読むよりも語り聞かされた方がずっとおもしろい。筆者も授業のなかで、昔話の語り聞かせを行っているが、大学生もこの時間を楽しみにしてくれているようである。



『現代の民話－あなたも語り手、わたしも語り手』
松谷みよ子著
中央論新社 2000、229p
短大図書館所蔵 388.1/Ma88



『子どもに語る 日本の昔話』
(全三巻)
稲田和子・筒井悦子著
こぐま社 1995・1996
大学・短大図書館所蔵 J/51/1-3

講演会だより

第3回図書館文化講演会 「童話とわたし」

講師：立原えりか氏（童話作家）
日時：平成 21 年 12 月 12 日（土） 14：00 ～ 15：30
会場：実践女子大学香雪記念館1階大教室（約 210 名）

立原えりか氏に童話について、3部構成で話していただきました。第1部では、どうして童話を書き始めたのか、こどもの頃のお話。第2部は、本学生活文化学科学生2名の絵本朗読『そして、トンキーもしんだ』（戦争の悲惨さを市民の視点から描いた作品）、『だいじょうぶだよ、ゾウさん』（年をとっていくこと、死をテーマにした作品）。第3部は、童話は、楽しいものばかりではなく、残酷で重いテーマの作品もあり、さまざまな本を読んでほしいというお話。



この2作品を朗読に選んだのは、「ゾウがとても好きだから」などユーモアをまじえながら、和やか雰囲気なか講演会が終了しました。

向田邦子研究会主催公開講演会 「鴨下探偵、 向田邦子の謎を解く」

講師：鴨下信一氏（TBS 相談役）
日時：平成 22 年 5 月 8 日（土） 14：00 ～ 15：30
会場：実践女子大学本館4階 AV ホール（約 130 名）

向田ドラマの演出を手掛けた鴨下氏が、向田文学の小説・エッセイに秘められた創作の謎を解き明かし、これまで生き方の魅力が大きく取り上げられてきた向田さんの、作品の奥深い魅力をご講演くださいました。向田文庫の見学には約 70 名が訪れました。



予告

第4回図書館文化講演会

「幸運の女神は前髪をつかめ - 学び続けること -」

日時：平成 22 年 10 月 7 日（木） 10：45 ～ 12：15
講師：見城美枝子氏（青森大学教授・エッセイスト・ジャーナリスト）
会場：実践女子大学香雪記念館1階大教室
申込不要 入場無料 ご参加お待ちしております！

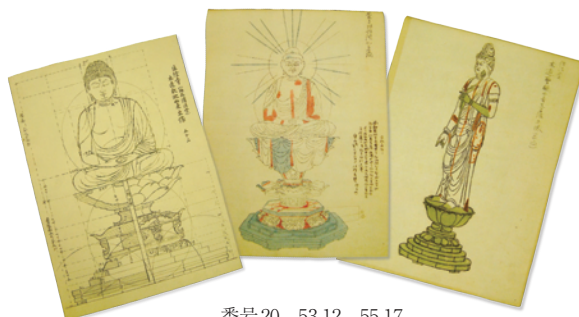
明珍恒男旧蔵「日本美術院国宝修理資料」

1991年に古書店より購入し、実践女子大学図書館の特殊コレクションとなっていた明珍恒男旧蔵「日本美術院国宝修理資料」（以下明珍資料）の目録を、このたびホームページに公開いたしました。そこで今号では知る人ぞ知る明珍資料をご紹介します。

《資料について》

この資料は明珍恒男氏直筆の国宝^{*1}仏像修理記録が中心となっており、868点にわたる修理計画書、図面、拓本、スケッチ等の貴重な資料です。国宝修理は、明治30年制定の古社寺保護法を契機として日本美術院第二部^{*2}が中心となって行っていたもので、明珍恒男氏は日本美術院入所の明治36年から亡くなるまでの38年間、仏師の一員として国宝修理に従事していました。

資料は仏像の修理箇所を示したのものや、銘文の写し、台座、厨子、小物など、なかには明珍氏の新作と思われる設計図も含まれており、バラエティーに富んでいます。装飾の一部などの拓本は、いまだ詳細不明のものもありますが、これからの研究によって明らかになることを期待しています。



番号20, 53-12, 55-17

※1 現在の国宝とは異なり、明治30年制定の古社寺保存法で指定されたもの。旧国宝。その後、昭和4年制定の国宝保存法に定められた国宝に吸収され、さらに昭和25年制定の文化財保護法の重要文化財に継承された。

※2 日本美術院は第一部が制作部門、第二部が修理研究部門として保存修理事業を担当していた。第二部はその後、大正3年に独立し、美術院と改称。所在地にちなんで奈良美術院と称される。昭和43年には財団法人美術院となり、開設以来四千数百件の文化財修理に携わった。

みよちん つねお

明珍 恒男 1882-1940

明治15年 長野県佐久郡小諸町に生まれる
年少時から高村光雲に師事

明治36年 東京美術学校木彫科卒業
日本美術院第二部(奈良美術院)に入所

昭和10年 奈良美術院主事に就任

昭和15年 奈良市の自宅で没(59歳)

明治から昭和前期にかけての木彫家・古美術研究家。日本美術院第二部(のちの奈良美術院)で国宝仏像の修理に従事したほか、文部省宗教局囑託をはじめ、文化財保護行政にも尽力する。

自身の作品は東寺食堂の十一面観音(京都)、大阪四天王寺復興五重の塔の扉彫刻八面など。

著書に『仏像彫刻』があるほか古美術に関する論考が多数。



番号58, 59, 60

《目録について》

今回公開した目録はExcelで作成したものです。明珍資料が特殊コレクションとして所蔵されてから今日に至るまで、一点一点資料を確認し、タイトル・所蔵・内容などを調査し目録を整備してきました。

目録はホームページにPDFでアップロードしました。大学図書館のカウンター前にもプリントアウトしたものを綴じておきますので、ぜひご覧ください。

URL: <http://www.jissen.ac.jp/library/collection/myochin.htm>

●参考文献

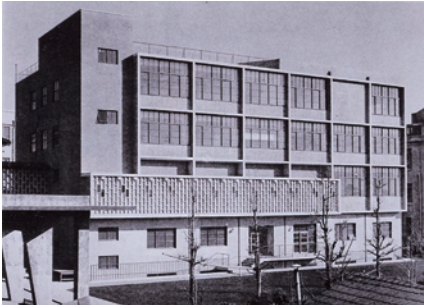
『国史大辞典』吉川弘文館、1979-1997年 『近代日本美術事典』講談社、1989年 『日本美術史事典』平凡社、1979年
「明珍恒男旧蔵「日本美術院修理資料」の概要」上原昭一『Library Mate』第8号、3p

* 特殊コレクションの閲覧には申請が必要になります。詳しくはホームページをご覧ください。

写真で見る図書館史 (2)

実践女子学園は昨年、創立110周年を迎えました。Library Mate 42号では、戦前の図書館について写真でその歴史を振り返りました。今号では戦後の図書館について見てみましょう。

＜昭和31年開館の新図書館です。校舎は渋谷にありました。＞



左：【新図書館外観】
(昭和33年アルバムより)
右：【2階カウンター】
(昭和47年アルバムより)

大学図書館では昭和28年4月、三谷栄一教授が図書館長に就任したのを機に、蔵書構成の充実と施設の完備をはかって、図書館棟の着工にとりかかり、昭和31年6月地上4階地下1階の図書館棟が落成しました。

しかし、同年9月、実際に開館を迎えたとき、図書館棟とは名ばかりで地下1階は化学実験室、研究室、食堂、地上1階には館長室、研究室、学生相談室が設けられていました。2階が図書館で5万冊を収納できる二層式書庫、閲覧室、事務室、中2階に貴重図書用書庫で総面積2,909㎡のうち、専有面積は2階の全フロアー 663㎡と1階の館長室33㎡のみでした。3階は中学・高等学校の図書館で、閲覧室は大学と同面積があてられ、その他、研究室、講義室で、4階は教室と小講堂でした。

利用にあたっては、大学図書館、中学・高等学校図書館ともオープンシステムがとられ、貴重図書以外は自由に書架から必要な書籍を取りだして見ることができました。



上：【2階閲覧室】(昭和33年アルバムより)
下：【2階積層書庫】(昭和47年アルバムより)

☆ 一口メモ ☆



昭和24年4月、実践女子大学の開設に伴い図書館の組織も近代化され、6月6日に図書委員会規程が成立しました。

このとき、藤井甚太郎教授が図書館長に就任、ここに初めて図書館長の職名が用いられ大学開設と同時に図書館拡充計画が発表されました。5年間で蔵書10万冊の目標をたて、これに伴う書庫、閲覧室の新築へと意欲的に取り組んでいきました。

昭和25年には図書館員は4名となり、このうち2名が昭和27年に司書資格を得ると同時に、初めて図書分類に著者記号を採用し、一部を除いて開架式システムに切り替えることになりました。



図書館からのお知らせ

大学図書館・短大図書館のココが変わりました！

大学院生の貸出期間変更

平成22年度から大学院生の通常の資料の貸出期間を変更します。 2週間→30日間

大学図書館の変更点

・雑誌の返却方法について

館内で閲覧（利用）された洋雑誌の利用統計を取っています。

新刊雑誌や館内で利用した洋雑誌など手に取って利用した洋雑誌は、雑誌書架に戻さず、全て黄色いワゴンに返してください。黄色いワゴンは洋雑誌書架に置いてあります。ご協力お願いします。

短大図書館の変更点

・その1・雑誌の返却方法について

館内で閲覧（利用）された雑誌の利用統計を取っています。

新刊雑誌や館内で利用した雑誌など手に取って利用した雑誌は、雑誌書架に戻さず、全て黄色いワゴンに返してください。黄色いワゴンは雑誌書架に置いてあります。ご協力お願いします。

・その2・指定図書の返却方法について

すでに大学図書館では行っておりますが、短大図書館でも館内で閲覧（利用）された指定図書の利用統計を取っています。

「館内」シールの貼ってあるもの、貸出手続きせず館内で利用した指定図書など、手に取って利用した指定図書は、全てベージュ色のワゴンに返してください。ベージュ色のワゴンは指定図書コーナーの後ろに置いてあります。ご協力お願いします。

※貸出手続きした資料はカウンターで返却してください。

館員の横顔

図書館事務部 部長 八幡 隆文

皆さんこんにちは！12年ぶりに図書館事務部に異動して（戻って）来ました。

図書館の1日は書庫整理から始まります。利用者さんが使い易いように、探し易いように図書館員から利用者（学生さん・教職員）さんへの‘こころばり’です。これは、以前と全く変わっていませんネ!!

図書館は随分利用し易くなりました。図書を検索する場合以前は、カード（ペーパー）を1枚1枚手作業で探していました。しかも、大学の図書は大学図書館で、短大の図書は短大図書館で別々でした。今は、コンピュータでキーワード検索、しかも大学・短大さらに他の図書館の資料も一緒に探せます。その他、短大の資料（DVD等）が大学で受け取れる・・・本当に便利になりました。

入門セミナー等でもお話ししていますが、『図書館を使わない手はありません!!』どんどん利用して自分の知識を増やしてください。残念ながら図書館は動けませんので、皆さんから大いに動いて便利に使ってください。

お待ちしております。

いんふおめーしょん

2010年7月～2010年11月

大学図書館

短期大学図書館

開館時間

通常 月～金 8:50～19:30
土 8:50～17:00

試験期(7/1～7/17)

月～金 8:50～19:30
土 8:50～18:00
(7/19～7/30) 6限授業のため開館時間延長
月～金 8:50～20:00
土 8:50～18:00
※7/19(月・祝)は通常授業・試験・補講のため、
20:00まで開館
※7/31(土)は試験予備日のため、16:00で閉館

夏休み期間(8/1～9/19)

月～金 9:00～16:00 ※土・日曜日休館

休館日

夏休み期間 毎週土・日曜日、8/12(木)～8/19(木)

試験期の貸出

7/1(木)～7/24(土) 3日間貸出
対象 大学生、短大生、科目等履修生

夏休み特別貸出

図書 期間:7/26(月)～9/8(水)
冊数:無制限
返却日 9/22(水)
※指定図書・雑誌は通常貸出です。

卒論作成者のための特別貸出

対象 博士論文・修士論文作成者
卒業論文作成者(全ての学科)

受付期間 10/1(金)～12/4(土)

貸出期間 貸出日から30日間

冊数 無制限

※卒論・修論特別貸出対象資料は、大学図書館で貸出手続きを行う図書のみです。

※指定図書・雑誌は通常貸出です。

開館時間

通常 月～金 9:00～18:45
土 9:00～16:00

試験期(7/1～7/31)

月～金 9:00～18:45
土 9:00～17:00
※7/19(月・祝)は通常授業・試験のため、
18:45まで開館
※但し、7/31(土)は9:00～16:00

夏休み期間(8/2～9/16)

月～金 9:00～16:00 ※土・日曜日休館

休館日

夏休み期間 毎週土・日曜日
8/12(木)～8/31(火)は、夏期休業
及び蔵書点検のため休館

校外研修日 10/7(木)

試験期の貸出

7/1(木)～7/24(土) 3日間貸出
対象 大学生、短大生、科目等履修生

夏休み特別貸出

図書 期間:7/26(月)～9/8(水)
冊数:無制限
AV資料 期間:7/26(月)～9/15(水)
冊数:6点

返却日 9/22(水)

※指定図書・雑誌は通常貸出です。

○ 常磐祭のため11/12(金)～15(月)は休館

○ 祝日の授業実施日は通常開館

○ 詳細や変更は掲示等でお知らせします

編集後記

今年は、国民読書年です。

図書館でも皆さんに参加していただける関連イベントを企画中です。

ぜひこの機会に図書館を利用し、たくさん読書をしてください！

Library Mate 第44号 2010年7月

発行所 実践女子大学図書館
東京都日野市大坂上4-1-1
URL:<http://www.jissen.ac.jp/library/>
実践女子短期大学図書館
東京都日野市神明1-13-1
URL:<http://www.jissen.ac.jp/library/jcol/>
発行責任者 窪 龍子